1

2

3

4

5

6

物語に足を踏み入れる

博物館、美術館、そしてさまざまな観光スポットで、移民たちの夢や希望からケルト人の創造性まで、いにしえの生き生きとした歴史に思いを馳せることができます。

1 **アイルランド国立博物館 ― 考古学館**(ダブリン)
国立博物館の目玉は、アイルランドの青銅器時代まで歴史を遡る宝飾品群です。紀元前2200～500年の間に制作された精巧な宝飾品の数々は、欧州で最も重要な先史時代金細工コレクションの1つです。また、驚くほど保存状態の良い鉄器時代の湿地遺体(bog bodies)、ヴァイキング時代のアイルランドに関する展示、そして美しい装飾が施された8世紀のアーダーの聖杯(Ardagh Chalice)も見ることができます。

2 **タイタニック・ベルファスト**(ベルファスト)
この巨大な博物館は、「夢の超豪華客船」が建造された造船台の上に建っています。内部には、9つの展示室があり、実物の遺留品、船内の再現展示、そしてインタラクティブな展示を通して、タイタニック号とそれを建造した活気溢れる街の歴史にたっぷりと浸ることができます。

3 **ウォーターフォード・トレジャーズ**(ウォーターフォード)
アイルランド最古の都市として知られるウォーターフォード。その歴史を紐解くには「ウォーターフォード・トレジャーズ」と呼ばれる3つの博物館に行きましょう。中世博物館、ビショップ・パレス、そしてレジナルドの塔(写真)は、1100年前のヴァイキングによる街の建設から18世紀の豪華なジョージ王朝の時代まで、この街の歩みを物語ってくれます。

4 **デリーグラッド・フォーク&ヘリテージ・ミュージアム**(ロスコモン県)
アイルランドの歴史は、ドラマチックな大事件の数々だけでなく、人々の日常生活を紡いだ物語でもあります。この家族経営の小さな博物館では、ひと昔前の時代を生きた人々の暮らしぶりを示す、慎ましい品々が展示されています。馬に引かせる農耕器具や、かつての学校生活をしのばせる展示、1930年代にあらゆる田舎町の中心にあったパーや食品雑貨店を復元した建物などを見学してみましょう。

5 **アルスター・アメリカン・フォーク・パーク**(ティロン県)
「新大陸」への移民は、アイルランドの歴史における大きな出来事です。この広大な野外博物館では、当時のアイルランドとアメリカ両方の民家の様子を見ることができます。展示されている建物は、元の場所から移築またはオリジナルが復元されたものであり、移民たちが何を後に残して行き、どのような生活を新たに作り出したかの両方を知ることができます。当時の衣装を身にまとった案内役が、移民たちの物語を伝え、過去への架け橋となります。

6 **パワーズコート・エステート**(ウィックロウ県)
17世紀と18世紀は、裕福で虚栄心に満ちた貴族階級が、巨大な邸宅と広大な領地によって権勢を世に示そうと試みた時代です。その様子を今に伝えるのがパワーズコート。グレート・シュガーローフの山を見晴らす丘の上にあり、47エーカー以上に及ぶ広さを誇る美しい庭園が見る者を魅了します。ここでエレガンスの時代を体験してみましょう! ♥

Ireland.com

写真:GAETH MCCORMACK

夢の城

アイルランドに残る数々の城は、静かな湖畔から切り立った崖の上まで、この島の最も美しい場所を背景に建てられています。ここでは、その中でも特に訪れる者を魅了してやまない3つの古城をご紹介します。

ダンガイア城
ゴールウェイ県

アイルランドを周遊していると、さまざまな古城が旅行者の目を奪い、足を止めずにはいられないことに気づくでしょう。草地に囲まれた湖を見渡す12世紀に遡る石積みの城跡、緑に輝く野原に建てられた優雅なお屋敷、荒波打ちつける息をのむような断崖絶壁に臨む廃墟……いずれも訪れる人に驚きと喜びをもたらします。

それでは、まずダンガイア城へ向けて出発しましょう。ゴールウェイ湾の南岸に位置するこの16世紀の古城は、7世紀の要塞の敷地に建っています。城郭としてはかなり控えめな印象ですが、その歴史は、アイルランドのクラン(氏族)、イングランド女王エリザベス1世、20世紀初頭のケルト復興運動、そして、スキャンダルから法改正の引き金となった離婚事件などさまざまなエピソードに彩られています。北にゴールウェイ湾の海面を、南にクレア県バレン高原の岩に覆われた荒れ地を望むダンガイア城は、アイルランド島で最も風光明媚な景勝地の1つです。西部で最も多く写真が撮られている城であるのも不思議ではありません。

もし、森や草原、川に恵まれ穏やかな田園地帯に建つ城がお好みなら、カーロウ県のハンティントン城に向かいましょう。これは1625年、おそらく修道院であったところに、軍隊の駐屯地として建設された建物ですが、その修道院はさらに古代まで遡ると聖堂だったものです。ですので、この地がドルイド僧の亡霊や泣き女などの登場する伝説に満ちていることも意外ではありません。17世紀以来ここに居住している一族の末裔で、現在の城主であるアレクサンダー・ダーディン=ロバートソン氏と一緒に城を巡るツアーに参加してみましょう。一族の肖像画の背後に秘められた物語に始まり、エジプトの女神イシスに捧げられた地下の聖堂まで、驚きの連続です。庭園もまた見逃せません。1680年代に整備されたこの庭園は、芝地、池、美しい林地が見事に配置されています。

「ダンガイア城は、アイルランド島で最も風光明媚な景勝地の1つです。西部で最も多く写真が撮られている城であるのも不思議ではありません」

ハンティントン城と対照的に、荒涼とした地に建つのがアントリム県のダンルース城です。ひたすら北を目指し、起伏の激しいコーズウェイ・コーストを進むと、荒波打ちつける岩礁の上に佇むダンルース城の姿が現れます。足元に気をつけながら細い橋を渡った先に建つこの城は、人が住むには辺鄙で危険な場所のように思えます。実際、スペインからやって来た無敵艦隊の船が岩礁で難破しているほか、かつて1組のカップルがこの城のふもとで最後を迎えたという悲恋の物語も残されています。それでもこの地の魅力に変わりはありません。アルスター伯がここに最初の城を建てたのは13世紀ですが、元は古いヴァイキングの要塞であり、16世紀半ばには競い合う氏族間でこの城をめぐる争奪戦が生じていました。伝説によれば、この城はバンシー(泣き叫ぶ女妖精)さえ招き寄せたと言われています。この城がなぜこれほどまで人を惹きつけるのか、その理由は訪ねてみれば分かるでしょう。どこまでも広がるアントリムの断崖では気持ちが高揚し、素晴らしい眺めを見て新鮮な気分になるからです。♥

フードツアーの魅力

フードツアーは、アイルランド島内各地の食文化と伝統料理を体験する理想的な方法です。

アイルランドでは今、「食の革命」が進行しています。農業や漁業の従事者、食品生産者、そしてシェフたちが、この緑の島が誇る世界有数の純粋かつ豊かな食文化の価値を認識し始めたからです。そうした中で、フードツアーは、地元の人々と旅行者が共に各地域が誇る最高の味を堪能する機会として、人気が急上昇しています。

ベルファストで飲食を主目的としたウォーキング・ツアーを主催しているテイスト&ツアーNI(Taste & Tour NI)のキャロライン・ウィルソン氏はこう説明します。「お客様は必ず、旅の最初にこのツアーに参加していればよかったという感想を残していかれます。皆さん、店先に並ぶ食品の多彩さに驚かれ、そして、他の旅行者とだけでなく地元の人たちとも触れ合えることを楽しんでいらっしゃいます」

各ツアーは、それぞれ独自の個性も売り物にしています。ベルファストから1時間半ほどの距離にあるエニスキレンの「エニスキレン・テイスト・エクスペリエンス(Enniskillen Taste Experience)」は、この歴史ある街における「食」のさまざまな側面に光を当てており、職人によるサワー種の手作りパンや地元産のアイスクリームから、ファーマナ県随一の高級レストランである28ダーリング・ストリート(28 Darling Street)のコンテンポラリー料理まで楽しむことができます。

グルメの街、コークの魅力をより深く知るには、「ファブ・フード・トレイルズ(Fab Food Trails)」に参加してみましょう。博識なガイドたちが、歴史あるイングリッシュ・マーケットに関する裏話を語ってくれます。そこで売られているトライプ(食用とされる反芻動物の胃袋)等の食品が、地域の歴史の一端を伝えていることが分かるでしょう。ゴールウェイでは、ゴールウェイ・フードツアーズ主催の「アラウンド・ザ・マーケットプレイス(Around the Marketplace)」ツアーが開催されています。まず、この街が誇るファーマーズ・マーケットに並ぶアトランティック・オイスターとアイリッシュ・ファームハウス・チーズから始まり、続いて、生産者と交流しながら、受賞歴のあるレストランやカフェで食事を楽しみます。また、デリー／ロンドンデリーの「メイド・イン・デリー・フード・ツアー(Made in Derry Food Tour)」は、ストリートフードと地産チーズの試食を4時間の散策に盛り込んでおり、25を超える地元産のフードとドリンクをこの城郭都市の歴史ある雰囲気の中で味わうことができます。土地の魅力をより深く理解するのにうってつけの方法です。

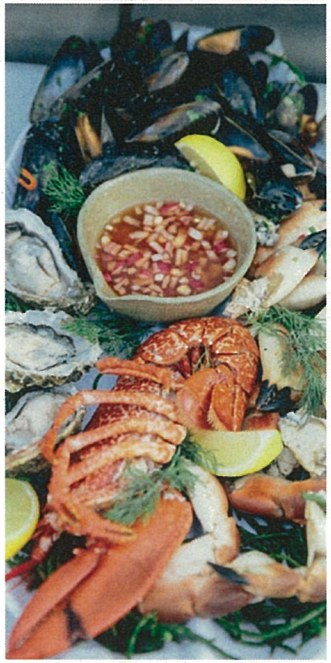
別の方法として、アイルランドの肥沃な田園を本格的に探索するツアーもあります。ウェックスフォードのフードツーリズム・プロジェクト、テイスト・ウェックスフォード(Taste Wexford)が企画した「フラワー・フェザーズ・アンド・フルーツ(Flour, Feathers and Fruit)」ツアーは、伝統的な石挽の製粉所、イチゴ農場、そして有機飼料を使用する養豚場と養鶏場を訪問する半日のツアーです。また、オファリー県の中心部でワイルド・フード・メアリー(Wild Food Mary)が実施している採食ツアーは、季節に応じて、ヘッジロウ・ハーブ、フルーツ、花、そして秋に実るベリーやシャントレル(食用キノコ)などを収穫できます。

このようにさまざまなツアーがありますが、それらすべてに共通点があります。それは、地元の人々と交流して思い出に残る時間を過ごす機会であること、また地元の人々と一緒に古くから伝わる食の遺産を再発見し、それをアイルランド島の個性の1つとして位置づけることです。♥

「皆さん、店先に並ぶ食品の多彩さに驚かれ、そして、他の旅行者とだけでなく地元の人たちとも触れ合えることを楽しんでいらっしゃいます」

Taste & Tourのひとこま
ベルファスト

採食体験
リートリム県



ワイルド・アトランティック・ウェイの味覚

1

2

3

4

1 パイク・ン・ポムズ(Pyke 'N' Pommes) ― デリー／ロンドンデリー
2 チーズ専門店:シェリダンズ・チーズモンガーズ(Sheridans Cheesemongers) ― ゴールウェイ
3 ハリーズ・シャック(Harry's Shack) ― ロンドンデリー県
4 グレンアーム産の短角牛 ― アントリム県

アイルランドの天然食材の味わい

豊かな味わい、熟意ある生産者、そして何世代も受け継がれてきた伝統。今こそ、アイルランドの真の味覚を楽しむ絶好の機会です。

豊かな海と肥沃な畑地に恵まれたアイルランドの農林水産物は、お皿の上で極上の料理へと姿を変えます。まずは、ビーフについて見てみましょう。緑豊かな牧草地と小規模な農場経営のおかげで、アイルランド島では、グラスフェッドビーフ(牧草飼育牛)が標準となっています。実際に味わってみたいなら、デリー／ロンドンデリーのフードトラック、パイク・ン・ポムズ(Pyke 'N' Pommes)のワギュウビーフバーガー、あるいはダウン県キリンチーのレストラン&パブ、バルー・ハウス(Balloo House)でハナン・ミーツ(Hannan Meats)から仕入れたグレンアーム産短角牛サーロインのヒマラヤ岩塩エイジングビーフをお試しください。

ラムは、アイルランドで最も有名な料理の1つであるアイリッシュ・シチューを作るときの基本食材です。ラム、ジャガイモ、玉ねぎ、人参をオーブンで煮込んだこのキャセロールは、シンプルでありながら、時代を超えた人気料理であり、焚火で調理するという料理の伝統を受け継いでいます。

1970年代後半に生産が始まって以来、アイルランドの農家によって手作りで生産されるファームハウス・チーズは、欧州で最も注目を集める食体験の1つへと発展しました。生乳ブルーチーズであるヤング・バック(Young Buck)のようなパンチの効いた新しいスタイルもあれば、デュラス(Durrus)、キリーン(Kileen)、セント・トーラ(St.Tola)などの定評ある人気銘柄もあります。ティペラリー県のキャシェル・ファームハウス・チーズ(Cashel Farmhouse Cheese)のようなチーズ生産者を訪ねることは、チーズ作りのプロセスをより詳しく知るのに良い機会であり、ファーマーズ・マーケットは、地元の生産者と知り合い、職人による手作りの味を堪能する理想的な場所です。

海の幸の味覚を一通り体験できるのが、ワイルド・アトランティック・ウェイに沿って、スモークハウス(燻製場)、水産食品生産者、牡蠣養殖場などを巡る「テイスト・ジ・アトランティック(Taste the Atlantic)」トレイルです。アトランティック・サーモンの燻製、牡蠣、ムール貝やカニを味わうなら、海岸線沿いに点在するレストランが狙い目です。

海の恵みを味わうことができる場所は、高級レストランや伝統的なパブだけではありません。ロンドンデリー県ポートスチュワート・ストランドのシーフードレストラン、ハリーズ・シャック(Harry's Shack)では陸揚げされたばかりの新鮮な魚を使った料理を楽しめます。あるいは、ドニゴール県キリーベグスの漁港を見晴らすレストラン、キリーベグス・シーフード・シャック(Killybegs Seafood Shack)で、アイルランドのベスト・チャウダー賞を受賞したチャウダーを味わうのもおすすめです。一風変わったものを食べてみたいなら、たとえば、アントリム県の海岸で採れるダルスやカラギン・モスなどの海藻を試してみてください。

新世代のシェフたちは、アイルランド島が誇る極めて豊かな自然の恵みを飽くことなく探求し、積極的に産地へ足を運ぶことで見聞を広めています。こういったシェフたちのおかげで、今や、かつてないほど気軽にアイルランドの素晴らしい味覚を楽しむことができるようになりました。♥

1

2

3

4

5

6

1 ゴールウェイのストリートミュージシャン
2 サワーズ・デリ(Sawers Deli) ― ベルファスト
3 アイルランド文学博物館 ― ダブリン
4 ゴールウェイの牡蠣
5 ビッグ・フィッシュ(The Big Fish) ― ベルファスト
6 ハーペニー橋 ― ダブリン

3つの都市

アイルランド島内の11都市すべてが、美味しい食べ物、気さくな人々、そして多彩な文化を誇り、旅行者は行き先の選択に困るでしょう。そこで、まず最初に訪れたい街として3つご紹介します。

雰囲気のある街:ゴールウェイ

大らかでボヘミアンの雰囲気を漂わせ、活気にあふれた街、ゴールウェイには、アイルランド西部の最高の魅力が集まっています。かつてこの地を支配していた中世の14部族にちなんで「部族の街(City of Tribes)」と呼ばれているゴールウェイの人々は、その伝統的なルーツに従って、文化的多様性を大切に育ててきました。この街では、どの通りにも陽気な精神が(歌声となって!)響き渡っています。ゴールウェイはストリート・パフォーマーが集まることでも有名で、街の中心地ショップ・ストリートやウィリアム・ストリート、スパニッシュ・アーチに音楽が鳴り響いていることは珍しくありません。夕方から夜にかけて訪れると、多くのパブの入り口からアイルランド伝統音楽のメロディーが聞こえてくるでしょう。特に、ティ・コリ(Tig Cóilí)、タフス・バー(Taaffes Bar)、クレーン・バー(Crane Bar)の3軒は、良質な音楽が聴けることで有名です。また、ゴールウェイはユネスコ「映画都市」、2020年の「欧州文化首都」に選ばれているほか、旅行ガイド「ロンリープラネット」の選ぶ2020年のお薦め旅行先ランキング「ベスト・イン・トラベル2020」の都市編でトップ10にランクインしており、シティブレイク(都市滞在型休暇)を過ごす街として完璧です。

食の街:ベルファスト

ベルファストはタイタニック号の建造で有名な街ですが、今では、そのフードシーンが輝いています。賞を獲得したレストラン、時代の最先端を行くシェフたち、そして素晴らしい地産品。どこに行くか迷っているなら、まずはセント・ジョージズ・マーケット(金～日)に向かいましょう。新鮮な食材が並び、気さくな生産者たちが迎えてくれる、活気ある雰囲気です。ミシュラン星付きのレストランOXやEIPICでは、最高の趣向を凝らした料理を堪能することができます。モーン・シーフード・バー(Mourne Seafood Bar)と、フィッシュ&チップスで有名なジョン・ロングズ(John Long's)では海の幸を楽しみ、ビア・レベル(Bia Rebel)では大きなどんぶりで出されるアイルランド風ラーメンに挑戦できます。ちょっと特別な体験をしてみたい方は、タイタニック・ベルファスト博物館へ。豪華客船タイタニック号のグランドステアケースを模した大階段のそばで、サンデー・アフタヌーンティーをお楽しみください。

文化の街:ダブリン

ダブリンは、どんな旅行者も笑顔で歓迎します。そしてどんな旅も、ストーリーにあふれたものになること間違いなしです。ヴァイキングが築いたこの街は、ジャンルを問わず実に多くの芸術家たちにインスピレーションを与え、また、芸術家たちを大事にしてきました。それは、国立美術館、国立博物館、ヒュー・レーン美術館やアイルランド現代美術館を訪れれば(入場無料です)、容易に理解できるでしょう。ダブリンの政治史を肌で感じるには、ダブリン城、グラスネヴィン墓地、キルメイナム刑務所がおすすめ。ダブリン大学トリニティ・カレッジには、9世紀の彩飾写本『ケルズの書』が収蔵されています。「ダブリン・リテラリー・パブ・クロール(Dublin Literary Pub Crawl)」は、かつてアイルランドの偉大な文学者たちが溜まり場にしていたパブを巡るツアーで、自分も文学者になった気分を味わえます。このほかにも見どころいっぱいのダブリンですが、一番の魅力は何でしょう? それは、次に何が待っているか分からない、予測がつかない面白さがあることです。クリスマスイブにグラフトン・ストリートを歩けば、そこで路上ライブをしているのはあのU2のボノかもしれません(もちろん、チケットは不要です)! ♥

Ireland.com

お祭りの島

晴れの日も雨の日も、アイルランドではフェスティバルのシーズンが途切れることはありません。いつでも何かしらお祝い事があり、誰もがパーティ好きだからです。

春

3月17日のセント・パトリックス・デー(アイルランドのナショナルデー)、アイルランドは島全体がにわかに活気づきます。朝6時、ケリー県のディングルで始まるお祭りを皮切りに、ダブリンのカーニバル・スタイルのイベントから、アーマー県とダウン県の「ホーム・オブ・セントパトリック・フェスティバル(Home of St Patrick Festival)」まで、祝賀行事とパレードがあちこちで繰り広げられます。4月は、西部のフードシーンが「ゴールウェイ・フード・フェスティバル」で盛り上がりを見せます。世界的に「スター・ウォーズの日」として知られる5月4日には、映画のロケ地になったワイルド・アトランティック・ウェイの各地でイベントが開催されます。また、ベルファストの「マリタイム・フェスティバル」では、埠頭に大型帆船が停泊し、海に因んだエンターテイメントやグルメを楽しむことができます。

夏

夏の到来を祝う海の音楽祭「シー・セッションズ(Sea Sessions)」はアイルランド最大のサーフィンと音楽のフェスティバルで、数千人がドニゴール県のバンドーランを訪れます。アントリム県の海辺の街バリーキャッスルで行われる「ウルド・ラマス・フェア(Ould Lammas Fair)」では、伝統音楽とダンス、馬の売買、手作り品マーケットなど、催し物がいっぱい。また、ジェイムズ・ジョイスの名著『ユリシーズ』を記念した「ブルームズ・デー」のイベント(6月16日・ダブリン)、アントリム県グレンアーム城の「ダルリアダ・フェスティバル」、今話題の「カーロウ・アーツ・フェスティバル」など、文化に触れるイベントも盛りだくさんです。

秋

フェスティバル・シーズンが本当に熱気を帯びるのは秋です。たとえば、18日間にわたって演劇とエンターテイメントが繰り広げられる「ダブリン・シアター・フェスティバル」、舞台芸術やダンス、ビジュアルアートを楽しむことができる「ベルファスト国際フェスティバル」が盛り上がりを見せます。また、コークの「ギネス・コーク・ジャズ・フェスティバル」は国際的にも高く評価されています。けれど、秋に最も話題をさらうのは、ちょっと不気味で楽しいハロウィーンのイベントでしょう。アイルランドはハロウィーン発祥の地です! 「デリー・ハロウィーン(Derry Halloween)」は世界最大のハロウィーン・パーティと言われており、お化け屋敷、ゴーストウォーク、奇怪なコスチュームが注目を集めます。これに負けず劣らずの人気を集めるのが、ミーズ県とラウス県で行われる「プーカ・ハロウィン・フェスティバル(Púca Halloween Festival)」。「幽霊」を意味するアイルランド語「プーカ」の名を冠するだけあって、このイベントの怖さは本物です!

冬

世界最高のオペラ・フェスティバルに選ばれたこともある「ウェックスフォード・フェスティバル・オペラ」が開催される12日間は、アイルランド南東部が壮麗なオペラの殿堂と化します。多くのバンドやシンガーソングライターがポートラッシュとポートスチュワートに集まる「アトランティック・セッションズ(Atlantic Sessions)」も毎年人気の音楽フェスで、コーズウェイ・コースト沿いのレストラン、ホテル、バー、カフェを会場に、さまざまなコンサートが開かれます。ダブリンのお祭りムードは、ドックランズ地区の「クリスマス・フェスティバル」と「ニューイヤーズ・フェスティバル」で高まります。年が明けると、市内中心部のテンプルバー地区で開催される「トラッドフェスト」で、伝統音楽のコンサートやギグを楽しむことができます。♥

セント・パトリックス・フェスティバル
ダブリン

写真:ST PATRICK'S FESTIVAL

映画の中に見る アイルランド

岩だらけの島の隠れ家で瞑想するルーク・スカイウォーカー。ウェスタロスの海岸の上を飛翔するドラゴン。テクニカラーによる緑の野原を背景として恋に落ちるジョン・ウェインとモーリン・オハラ。こうした、見る者の記憶に残る場面を結び付ける1つの場所――それがアイルランド島です。

ロケ地を探す映画制作スタッフをこれほど多く惹きつけるのは、その風景にドラマがあるからでしょう。映画『ハリーポッターと謎のプリンス』の撮影で、風雨が激しく打ち付ける切り立った崖が必要になったとき、ワイルド・アトランティック・ウェイ最大の見所であるモハーの断崖(クレア県)よりも適したロケ地は存在しませんでした。風の吹きすさぶダウン県モーン山地の壮大さは、長く行方の知れなかった息子を探す女性の感動的な物語を描き数々の賞を受賞した作品『あなたを抱きしめる日まで』の背景となりました。スティーブン・スピルバーグ監督作品『プライベート・ライアン』の壮絶なオープニング・シーンを見た人は誰でも、それが撮影されたウェックスフォード県にあるカラクロー・ビーチの実際は静穏な姿に驚くかもしれません。

しかし、人を惹きつけるのは自然の美だけではありません。数々の作品を美しく飾り立てる歴史的建造物もまた、アイルランドが生んだ偉大な映画スターです。ミーズ県では13世紀築城のトリム城が、メル・ギブソン主演・監督の『ブレイブハート』で、イングランドの要塞都市ヨークの「代役」として違和感なく受け入れられました。優雅な屋敷、たとえば、コリン・ファレルとジェシカ・チャステイン主演の『Miss Julie(原題)』の舞台となったファーマナ県のキャッスル・クールや、トム・クルーズとニコール・キッドマンが共演した映画『遥かなる大地へ』やTVドラマ・シリーズ『THE TUDORS ～背徳の王冠～』が撮影されたウィックロウ県のキルラダリー・ハウスのような大邸宅は、いにしえの特権社会と栄華を極めた時代の典型例としてそのまますぐに映画セットとなり得ます。もっとも、ドラマの迫真性という点では、ダブリンのキルメイナム刑務所や、ベルファストのクラムリン・ロード刑務所の監房に凋りつく犯罪と懲罰の実話の恐ろしさは、犯罪コメディの古典的傑作『ミニミニ大作戦』(1969年)や自主制作ドラマ『名もなき塀の中の王』のような映画に登場したその様子からは想像もできないものです。

都市部もまた、それぞれに相応しい形でスポットライトを浴びています。賑やかなTVコメディ『デリー・ガールズ ～アイルランド青春物語～』は、1990年代のデリー／ロンドンデリーの印象的な光景を描き出しており、今ではこの街を訪れる人たちの多くが、ドラマに登場する場所を探す「ロケ地巡礼」を楽しんでいるほどです。ベルファストは、TVドラマ『THE FALL 警視ステラ・ギブソン』の中で現実そのままの姿を見せており、ジェイミー・ドーナン演じる連続殺人犯が、ジリアン・アンダーソン扮する刑事巡査と心理戦を展開する舞台となっています。そして、ダブリンは非常に頻繁に映画・ドラマに登場してきたため、『ザ・コミットメンツ』や『ONCE ダブリンの街角で』のリアリズムから、ジェイムズ・ジョイスによる同名の短編を原作とするジョン・ヒューストン監督作品『ザ・デッド／「ダブリン市民」より』のセピア調に描かれたものまで、観客はさまざまな街の姿を目にしてきました。

これほど多くの作品でTVと映画のファンを魅了してきたアイルランド島は、誰もが現実の世界で自ら冒険へ出るのにふさわしい場所なのです。♥

ウィンターフェル
ダウン県

DART（ダブリン県キライニー）

カナルボート（レイトリム県）

カーンロー港（アントリム県）

ウォーターフォード・グリーンウェイ（ウォーターフォード県）

エリガル山（ドニゴール県）

エルン湖の水上タクシー（ファーマナ県）

アイルランド・インフォメーション

ここでは、アイルランドへの旅を計画する際に知っておくべきことをご説明します。

基本情報

アイルランド島は南北に約302マイル／486キロメートル、東西に170マイル／274キロメートルの大きさで、総面積は約32,600平方マイル（84,421平方キロメートル）です。島全体には32の県があり、うち26県がアイルランド、北部の6県が北アイルランドです。アイルランドは議会制民主主義国家で国家元首は大統領です。北アイルランドは独自の行政府がありますが、英国の一部です。アイルランド島全体の人口は約600万人で、約430万人がアイルランド、約170万人が北アイルランドに暮らしています。アイルランドは若い人口構成が特徴で、国民の約3分の1が29歳以下です。

パスポート

【アイルランド】
アイルランド入国に必要なパスポートの残存期間は、滞在期間＋6ヵ月以上です。日本国籍所有者は査証（ビザ）不要。ただし、3ヵ月以上滞在する場合は、ダブリンではGarda National Immigration Bureau（GNIB）で、それ以外の都市では所轄の警察署で外国人登録が必要です。また、緊急時の連絡のため、入国後1ヵ月以内に在アイルランド日本国大使館宛に在留登録手続をしておくと良いでしょう。

Garda National Immigration Bureau (GNIB)
住所　13-14 Burgh Quay, Dublin 2
http://www.inis.gov.ie/en/INIS/Pages/registration

【北アイルランド】
駐日英国大使館にご確認ください。
TEL 03-5211-1100

【言語】
アイルランド全島で日常的に英語が使用されています。
アイルランドの一部「ゲールタクト（ゲールタハト）」と呼ばれる地域では、アイルランド語（ゲール語）が使われています。ケルト語派の言語であり、世界最古の言語の1つであるアイルランド語は、現在も全国の学校で教えられています。
北アイルランドの一部地域ではスコットランド語の一種であるアルスター・スコット語が話されています。
アイルランド人は、おしゃべり好きで有名です。実際に訪れると、そのような評判の理由がお分かりいただけるでしょう。

【日本との時差】
マイナス9時間。サマータイム期間（3月最終日曜日から10月最終日曜日まで）はマイナス8時間。

【国際電話】
アイルランド⇒北アイルランド
048-（相手先の電話番号。市外局番不要）

北アイルランド⇒アイルランド
00-353-（市外局番の最初の0をとった番号）-（相手先の電話番号）

日本⇒アイルランド
（国際電話識別番号）-353（アイルランド国番号）-（市外局番の最初の0をとった番号）-（相手先の電話番号）

日本⇒北アイルランド
（国際電話識別番号）-44（英国国番号）-（市外局番の最初の0をとった番号）-（相手先の電話番号）

アイルランドおよび北アイルランド⇒日本
00（国際電話識別番号）-81（日本国番号）-（市外局番の最初の0をとった番号）-（相手先の電話番号）

【電圧と電気器具】
アイルランドでは220～230V、50Hz。北アイルランドでは240V。ソケットは両国ともに3本足（BFタイプ）が最も普及していますが、一部2本足（Cタイプ）のところもあります。

アイルランド島へのアクセス

空路

日本からの直行便は就航していませんが、ヨーロッパ主要都市をはじめ多くの定期便があるので乗り継ぎは容易。日本からヨーロッパ各都市への直行便を利用すれば、ほとんどの場合、同日乗り継ぎが可能で、その日のうちに到着できます。ロンドン発だけでも一日70便以上が就航しており、1時間ほどでアイルランドに到着します。

海路

英国とヨーロッパ大陸からフェリーでアクセス可能。主要な国際港は6ヵ所。

国内での移動

アイルランドは小さな島なので、空路、道路、鉄道のいずれでも容易に移動できます。

車

アイルランドの道路は全般に高い水準にありますが、田園地方に足を踏み入れると、道が狭く曲がりくねっている場合もあります。道路は全島で日本と同じ左側通行です。レンタカーの営業所は、空港、港、都市の中心部にあります。運転には日本の運転免許の他に、国際免許をご用意下さい。

飛行機

アイルランド島の大きさを考えると、国内線を利用する必要性は少ないですが、主要な空路としてはダブリン=ケリー線があり、約40分のフライトです。また、アラン諸島の3つの島すべてに定期便が就航しています。

公共交通機関

鉄道網は全島を網羅しており、アイルランドではアイリッシュ・レイルによって、北アイルランドではノーザン・アイルランド・レイルウェイズによって運行されています。ダブリンの近郊電車であるダート（DART）はダブリンの海岸線と市街地を走っており、路面電車のルアス（Luas）には市の南部と中心部を結ぶ2つの路線があります。長距離バスや路線バスでの移動は、経済的でリラックスした旅ができます。アイルランドのバス・エーランと北アイルランドのトランスリンクが、アイルランド全島でコーチ・ツアーを運営しています。また、民間のコーチ・ツアー運営事業者、空港送迎、都市間連絡、ゴルフ旅行などにも非常に多くの選択肢があります。

自転車

数多く業者があり、手頃な料金で自転車を借りることができます。また、借りた店舗と別の店舗で返却することができる業者も多く便利です。通常、レンタル料には鍵、空気入れ、パンク修理キット、跳ねよけ、運搬費が含まれますが、お手続きの際にご確認ください。また、万が一のトラブルに備え、ご加入の旅行保険の補償範囲を事前にご確認ください。子ども用自転車も借りることができますが、事前の予約をおすすめします。

船

アイルランドの離島のほとんどは、それぞれ地元の業者が運航するフェリーでアクセスが可能です。運行状況は当日の天候にもよりますので、Met Éireann（アイルランド）、Met Office（北アイルランド）の提供する気象情報をご確認ください。
航路によっては、ハイシーズン（通常6月～8月）のみ運行するものもありますので、事前に時刻表の確認をお忘れなく。
河川や湖、運河をボートや荷船で旅することもできます。船舶免許が不要で、未経験でもその場でトレーニングを受けることで乗ることができるボートもあります。

通貨とカード

【通貨】
アイルランドの公式通貨はユーロ（€）です。北アイルランドでは英国通貨のポンド（£）が使用されています。

【銀行とクレジットカード】
Visa、MasterCard、American Expressが広く普及しています。他のカードについては、使用前に確認しておいた方が良いでしょう。ATMは、銀行のほか、町や市の中心部にも設置されており、ほとんどのクレジットカードとデビットカードを利用することができます。

【両替】
空港の両替所や市内の銀行、郵便局、観光案内所、一部ホテル等で両替できます。また大手銀行発行の国際キャッシュカードを使用して24時間稼動のATMから現地通貨で引き出すことも可能です。

日本国大使館

【アイルランド】
在アイルランド日本国大使館
住所　Nutley Building, Merrion Centre, Nutley Lane, Dublin 4
TEL: 01-202-8300
https://www.ie.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/

【北アイルランド】
在英国日本国大使館（ロンドン）
住所　101-104 Piccadilly London W1J 7JT
TEL: 020-7465-6500
https://www.uk.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/

緊急時の連絡先

旅行中に緊急連絡先を必要としないことを願いますが、万一の際は以下までご連絡ください。

警察／消防／救急車
【アイルランド】
TEL: 112または999

【北アイルランド】
TEL: 999

ショッピング：免税払い戻し

アイルランド

EU外の居住者は、小売輸出制度に従い、アイルランド滞在中の購入品についてVATの一部の払い戻しを受けることができます。ほとんどの小売店はこのVAT払い戻し制度に加入しており、購入後、VAT払い戻しフォームを店に請求することができます。ダブリンにある3か所の払い戻しポイントで税の払い戻しを請求できます。ダブリンとシャノンの空港にも払い戻しポイントがあります。
速やかに払い戻しを受けるためには、フォームに正しく記入し、クレジットカード番号を記載しましょう。購入した物品は、購入月から3か月以内にEU外へ持ち出す必要があります。リファンド・エージェントから払い戻しを受けるまで4～6週間かかります。
VAT払い戻しフォームに記載した1つの品物の購入価格が€2,000以上の場合、出国地の税関職員にフォーム、レシート、および品物を提示して検印をもらう必要があります。
免税ショッピングの詳細については、アイルランドの2つの大手リファンド・エージェントTax Free WorldwideとFexcoでご確認ください。

北アイルランド

北アイルランドで購入した物品の税も払い戻しを受けることができます。
https://www.gov.uk/tax-on-shopping/taxfree-shopping

天気

メキシコ暖流の影響で、アイルランドの気候は年間を通じて比較的穏やかで温暖です。天気は変わりやすいですが、極端な現象は稀です。

宗教

最も広く信じられている宗教はキリスト教ですが、住民は、幅広い信仰と信念を受け入れています。アイルランド島には、極めて多岐にわたる礼拝施設があり、特別な戒律に対応できる専門的な食料品店やレストランのほか、特定宗派向けの宿泊施設も幅広く存在しています。いずれも、極めて多様な宗派を快く受け入れるアイルランドの文化を反映するものです。

喫煙

アイルランドと北アイルランドには禁煙条例があります。屋内の就業場所で喫煙することは違法であり、これはすなわち、パブやレストランから、店舗、オフィス、そして公共交通機関に至るまで、あらゆる場所が禁煙であることを意味します。ただし、例外も存在しており、一部のホテルやゲストハウスは喫煙室を提供しています。また、パブ、ナイトクラブ、ホテルでは、通常、屋外の路上または庭園内に喫煙場所を設けています。吸い殻は必ず所定の灰皿に入れてください。これを守らない場合、不法なポイ捨てとして100ユーロの罰金が科せられることがあります。

チップ

アイルランドには、チップに関する厳格なルールはありません。一部のレストランでは、「サービス料」が適用されています。これは、チップの代金が勘定書に含まれているため、追加料金を支払う必要はない、ということです。サービス料が適用されていない場合は、お客様の判断となります。チップの平均的な額は規定料金の10～15%ですが、義務はありません。パブではチップを渡さないのが一般的ですが、カウンター席ではなく、テーブル席で給仕を受けた場合はこの限りではありません。